

公園墓地のさきがけ  
開苑55周年

我が家族、  
春秋苑に眠る。

映画俳優・1920年～1997年

三船敏郎



故・三船敏郎氏のご長男・三船史郎氏。  
生き別れた祖父を春秋苑に埋葬した、父の思いを語る。

第二次大戦のさなか、中国・大連で亡くなった祖父・徳造。戦地を転々としていた父は最期を看取ることができず、さぞや無念だったのでしょう。日本で、祖父の供養を。それが父の願ひでした。かつて時代劇ロケで何度も訪れた生田。なじみ深い地に公園墓地があると知った父は、平成4年、祖父のために三船家代々のお墓を建てたのです。中国から日本へ。祖父と父の絆は海を越え、今では同じ墓所で安らんでいます。

●三船敏郎氏のプロフィール 中国・青島生まれ。昭和21年東宝第1期ニューフェースで入社し、翌年「銀嶺の果て」でデビュー。以後、「七人の侍」「用心棒」など故・黒澤明監督作品の顔として活躍。生涯148本の映画に出演。世界のミフネと呼ばれた、日本が誇る国際的スター。二度のベネチア映画祭主演男優賞、勲三等瑞宝章など国内外の受賞歴・栄典・称号多数。

ご利用者の宗教・宗派を問いません

お問い合わせ資料のご請求は

0120-07-4100  
<http://www.shunjuen.or.jp/>

小田急線生田駅  
高級公園墓地

春秋苑

〒214-0036 神奈川県川崎市多摩区南生田8-1-1



# 生き別れた祖父のために、お墓を建てた父。

## 故・三船敏郎氏の墓所について、 ご長男・三船史郎氏にインタビューしました。

中国で亡くなった祖父：  
お墓もなかったと思います。

もともと三船の本家は、秋田の鳥海山の麓にあるんです。二男坊だった私の祖父は中国に渡り、手広く写真館を経営していました。中国の風俗や日独戦争の先勝祝いのアルバムなどを作り、販売していたんです。ですので、父は日本生まれではなく、中国・青島で長男として生まれました。



やがて第二次世界大戦が始まり、父は召集されました。兵役を終えて戻る前に、祖父は大連で亡くなってしまったんです。最期を看取ることができず、父はどれほど無念だったでしょう。広告がきっかけで墓所の購入を決めたんです。

終戦後、日本に戻ってから、父はずっと「お墓を作り祖父を供養したい」という気持ちを持っていました。

ある日、新聞を読んでいた父は、広告で春秋苑を知り、墓所を購入することにしました。

かつて、東宝の時代劇は生田で撮影することが多かったんです。



なじみ深く、また自宅から行きやすい立地が決めてだったようです。私も父と一緒に春秋苑を見学しましたが、生田の景色を見渡せる雰囲気の良いところだと思いました。

春秋苑からの提案で  
新しい位牌ができました。

三船家のお墓を建てるにあたって、一つ困ったことがありました。祖父は大連で亡くなったため、お墓に納める遺骨も位牌もありません。そこで「写真を石に焼きつける」という当時の新しい方法で、春秋苑が位牌を作ってくれました。

祖父の本名は徳造ですが、墓誌には、秋香という名が刻まれています。祖父が写真の仕事をする時に使っていた名前です。ここにもまた、父の思いが込められているのでしょうか。

祖父と父が安らげるよう  
掃除を心掛けています。

生前の父は、映画のイメージとは違い、几帳面できれいな好きな人でした。いつも箒と塵取りを持って、自分で三船プロダクションのスタジオを掃除していたんですよ。そんな父のために、お参りに行く時にはできるだけ墓所をきれいにしています。父が祖父への思いを込めて建てたお墓ですからね。

戦争で生き別れて、数十年。時を経て、祖父と父は今、共に生田の地で安らかに眠っています。

